傾ける殿堂

上里春生

青空文庫

――一切の世界進行を、「自己運動」に於て、自発的発展に於て、生ける実在に於てあるものとして把握する認識の条件は、それらの対立の認識これである。……発展は対立の闘争である
――レーニン

かつて世が苦悩を塗り罩めた時
偉大なる殿堂は輝いてゐた。
勝利の山に燦然と
晴朗の日月を飾帯(しょくたい)し
円満具足(えんまんぐそく)の己れを持(じ)した
青い時から、青い時まで
最上善の指標をつとめた。

所謂衆生は秘かに汗ばみ
所謂庶民は僅かに息吐(いきづ)き
所謂人類は爪尖たてゝ
苦悩の大地の垣根の辺(ほと)りに
是を仰いで浩歎した。
袖の下から歎美した。
その栄光をうべなふに——

だが其の栄光を支へてゐたのは
汚い泥土の湿地を匍匐(はらば)ふ
歎く葦原の類(たぐひ)のみでない
勝利の偉勲の刃(やいば)でもない。
地が明かに許容したのだ
在るべきものゝ斯くては在るのを。
そこでは錯覚が支配した——

偉大なる殿堂は輝いてゐた。
恍々として玄義（げんぎ）の如く
燦々として白亳（びやくがう）のやうに
厳として聚ゆる権利の如く
あらゆる慧智の王府のやうに
偉大なる殿堂は輝いてゐた
勝利の山に輝いてゐた。

偉大なる殿堂の存在（ザイン）を仰げよ
偉大なる殿堂の旗幟（はた）を仰げよ
偉大なる殿堂の紋章を読めよ
偉大なる殿堂の齢（よはひ）を数へよ
偉大なる殿堂の広※（ひだ）を撫（ぶ）せよ
偉大なる殿堂の向後を問へよ
偉大なる殿堂の内陣（ネーヴ）を覗（のぞ）けよ。

誰が初めて建てたのか

誰が太初に発見けたか
知られない強権の略取の上に
恐らくは人類の競争が
側目も振らずに積みあげて来た
絶大無量の生命の剰余よ―
偉大なる殿堂は輝いてゐた。

だがその内に世紀は老けた
月と日と星がその上に訪て
交り番こに瞬いては去つた。
旗幟はやうやく汚れて悲み
風がその広※に陰影を与へた。
何やらん歓会の声の綾にも
焦燥が青黒い貌をもたげた。

偉大なる殿堂に時は来た
宛ら燃え立つ大森林の

すさまじい夜景の熱風(ねっぷう)のやうに
あの殿堂を揺がした
喝采の声も嗄(しわ)がれていつた。
今は幻滅の除夜(ぢよや)の真近(まぢか)だ。
蒼ざめた勝利が顫へてゐる。

正義はその立つ支柱を失ひ
是(こ)にやうやく桎梏となつて
偉大なる殿堂を自壊に導く。
暗い土台の土の底では
手を差し交(か)へて喚ぶのであらう。
幾億の人柱(シシアス)の恨みの声が
怒濤のやうに、むくれ合つてゐる。

人、生れて誰か思念を拒否する?
人、生れて誰か己れを否まう?
日が野にりようらんと在るやうに

各々(おのく)も各々の意志によりたい。
けれ共実在は決定(けつじょう)である。
各々の意志とは別個である。
厳として実有が各々を意志する。

斯くて殿堂は傾いていつた。
刻々と斜めに軋(きし)る痛苦(いたみ)に
堪へがての人柱(ツシアス)のつきぬ恨みが
遂に地の底に巣(す)くふに到つた。
聞け！　陰惨な行疫神八将の
不吉な叫び声の渦巻きを……
偉大なる殿堂は傾いてゆく。

地平の彼方に血の浸(にじ)む頃
偉大なる殿堂は声さへ挙げた。
世にも恐ろしい勢で
地軸と共に落込んでゆく

暗転の前の畏怖(おそれ)をもつて
偉大なる殿堂は傾いてゆく。
夜の烏がその上に躊躇(ためら)つてゐる。

青空文庫情報

底本：「沖縄文学全集　第1巻　詩※［#ローマ数字1、1-13-21］」国書刊行会
　1991（平成3）年6月6日第1刷
底本の親本：「文章世界」
　1917（大正6）年
初出：「文章世界」
　1917（大正6）年
※「――」と「―」の混在は、底本通りです。
※「人柱」に対するルビの「シシアス」と「ツシアス」の混在は、底本通りです。
入力：坂本真一
校正：hitsuji
2019年5月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

傾ける殿堂

上里春生

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/